

令和6年9月4日

静岡市長 難波 喬司 様

藁科地域小中一貫校整備事業
設計プロポーザル審査会
委員長 石川 春乃

藁科地域小中一貫校整備事業設計公募型プロポーザル第2回審査会報告書

令和6年9月4日に開催した第2回審査会において、技術提案書の審査を行い、設計候補者及び次点設計候補者を特定しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 設計候補者
株式会社アルセッド建築研究所
- 2 次点設計候補者
有限会社野沢正光建築工房
- 3 その他の技術提案書提出者（50音順）
株式会社大瀧建築事務所
株式会社高橋茂弥建築設計事務所
企業組合針谷建築事務所
有限会社ビルディングランドスケープ
株式会社三上建築事務所
- 4 藁科地域小中一貫校整備事業設計公募型プロポーザル審査会審査講評
別紙のとおり

藁科地域小中一貫校整備事業設計公募型プロポーザル審査会 審査講評

| | | |
|-----|----|----|
| 委員長 | 石川 | 春乃 |
| 委員 | 早津 | 和之 |
| | 望月 | 滋人 |
| | 青嶋 | 浩義 |
| | 田嶋 | 太 |
| | 中川 | 将巳 |

1 審査の経過

藁科地域小中一貫校整備事業設計公募型プロポーザルにおける設計候補者の特定に関し、2回の審査会を行った。

(1) 第1回審査会(令和6年7月4日)

第1回審査会では、参加表明書提出者8者の技術資料について審議し、技術提案書提出者を7者選定した。

(2) 第2回審査会(令和6年9月4日)

技術提案書の提出者として提出意思があった7者から個別にヒアリングを実施した。ヒアリングは、応募者からの説明15分、質疑応答10分、計25分間で、非公開により実施した。

ヒアリング後、提出された技術提案書の内容及びヒアリングの総合評価による審議(非公開)を行った。

審議結果を基に、評価が最も高かった者を設計候補者とし、次位の者を次点設計候補者として特定した。

なお、審査会では設計候補者を特定するまで事務所名は公表せず、1次審査では「応募者1」から「応募者8」、2次審査では「提出者1」から「提出者7」という名称にて審査を行った。

なお、技術提案書の課題については、次のとおりとした。

課題1 オクシズ材の利用と木材の見せ方について

温かみのある校舎の配慮事項

課題2 将来の可変性について 将来を見据えた用途転用への配慮事項

課題3 環境教育の取り組みについて 児童生徒の環境教育への配慮事項

2 全体講評

藁科地域小中一貫校整備事業計画は、中藁科小学校、水見色小学校、清沢小学校3校と藁科中学校を対象とした施設一体型の藁科地域小中一貫校の開校を目指すものである。

藁科地域小中一貫校は、藁科地域の風土や周辺環境との調和を図り、児童生徒をはじめ、地域住民が木のぬくもりを感じられ、長きに渡り愛着を持てるよう、地域材であるオクシズ材を活用した木造の校舎を整備する。オクシズ材を活用することで、単なる学校施設の整備だけでなく、持続可能な地域づくりへの有効性を高め、また、環境教育の場としての活用や、地域住民にとって象徴的な施設となることを目指している。

本審査会は、藁科地域小中一貫校整備事業に伴う基本設計・実施設計業務の設計候補者をプロポーザル方式により特定した。

各応募者からは、3つの課題を含めた設計と条件に対し、創意工夫を盛り込んだ質の高い技術提案が示された。加えて、建設時の既設校舎利用を踏まえた仮設計画の提案、学習活動への影響を考慮した地域防災拠点としての防災対策、長期利用を鑑みた維持管理計画に配慮した提案などが示された。

3 個別講評

設計候補者として特定された応募者の提案は、テーマ『地域とともに歩む学校「コミュニティスクール」の実現』のもと、3つの基本方針として「わらしな学を推進し地域への誇りと愛着を育む場」「自ら考え学び行動する子どもを育てる場」「藁科の新たなまちづくり・交流拠点となる場」が提案された。それを『オクシズ材を五感で感じる我が家のような空間、将来の変性確保とLCCの低減、わらしな学の教材となる木の学校』として、具体的に建築計画に示したことが評価された。

構造計画では、オクシズの桧・杉の4m製材を最大限活用し、オクシズ材の確実な調達とコスト削減まで踏み込んだ内容となっており、運用時への配慮などの確かな提案となっていることが評価された。

建築計画は、学校運営・地域開放・災害対応しやすい明快なゾーニングが提案されており、低学年の教室は1階、高学年の教室は2階に配置し、教室ごとの遮音性や居住域の快適感を考慮した提案となっていることも評価された。

整備方針であるオクシズ材の活用、持続可能な地域づくりへの有効性、環境教育の場としての活用、地域住民にとって象徴的な施設について、よく理解している提案であることが感じ取れた。

ただし、安全安心な学校整備について、建設地における浸水ハザードを踏まえ、再検討を重ねた上で設計を進めていただきたい。

次点の応募者の提案は、『豊かな自然にひらかれた長寿命で明るい木の学び舎』を掲げ、校舎と体育館、グラウンドとのバランスの取れた配置計画が提案されていた。また、建築計画は、小断面の無垢材でコストを抑えフレキシブルな空間、地域の歴史文化に触れるスロープギャラリーと図書室が提案されるとともに、学習環境を意識した設備配置や床の遮音など、技術的にも説得力のある提案であることが評価された。

ただし、藁科の地域性やオクシズ材の環境教育面での活用等に対する踏み込んだ提案が少なかったという意見もあり、極めて堅実な案ではあるが、静岡市では初となる木造校舎の提案とするには今ひとつ運用を見通した具体性が欲しいことが設計候補者案との差違である。

その他の応募者の提案も、計画条件や本建設地及び周辺地域の特徴をそれぞれよく調査し、整備方針を踏まえた独創性のある提案がなされ、取組意欲を感じた。いずれの案も、藁科地域ならではの景観を意識し、水見色川や桜並木との関係性をそれぞれの視点から思考し提案されていた。また、オクシズ材利用の木造架構についても、長期運用の維持管理面から、独自の提案を示していた。

ただし、設計候補者及び次点者に比べ、配置計画や動線計画の合理性に欠けていたこと、木造架構の成立性についてやや不安があると感じられる点が散見されたこと、運用上難しさを感じる平面計画が見られたことなどから上位に選出されなかった。